

インド 追加利下げとインフレ目標導入

インド 追加利下げ決定

- ◆ 3月4日、インド準備銀行(中央銀行)は臨時の金融政策会合を開き、政策金利(レポ金利)を7.75%から7.50%に0.25%引き下げを決定し、即日実施しました。今年1月15日に約1年8ヵ月ぶりとなる利下げを行っており、今回は今年2回目の利下げとなります。
- ◆ 利下げ決定には以下のような背景が考えられます。
 - ①インフレ率が落ち着いていること、②2月28日に発表された2015年度予算案で示された財政健全化の取り組みをインド準備銀行が前向きに評価したと思われること、③インド準備銀行とインド財務省がインフレ目標政策の導入を柱とする政策協定で合意したこと(インフレ目標の共有化が出来たこと)、④経済の一部が弱含んでいること。
- ◆ インド準備銀行のラジャン総裁は今回の追加利下げ決定に関し、以下のような内容の声明を行っています。
 - ・インフレに関して:インフレ指標は落ち着いた水準で推移しており、財政健全化計画達成は1年先延ばしとなるものの、特に州政府が協力的であれば穴埋めが出来る。
 - ・経済に関して:設備稼働率等一部の指標が軟調であり、金融緩和の余地を利用して先手を打って対応することが適切である。
- ◆ 声明の中でラジャン総裁は、現状のインドルピー相場は比較的高水準との認識を示し、適度な物価上昇を伴う経済成長の実現等にマイナスの影響を与えているといった趣旨の懸念を表明しています。尚、為替相場の目標については、インド準備銀行は設定していないとコメントしています。

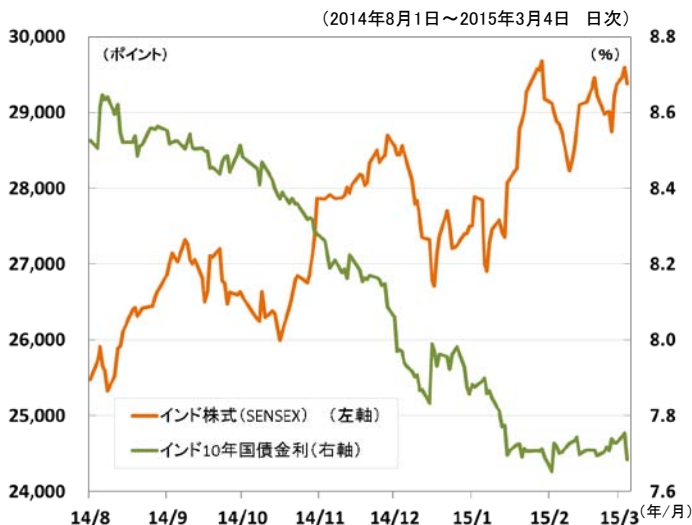
インド準備銀行とインド財務省 インフレ目標(インフレターゲット)導入

- ◆ インド財務省は3月2日、インフレ目標(インフレターゲット)を導入することをインド準備銀行と合意したことを発表しました。ラジャン総裁が以前から導入を働きかけていたもので、以下のような数値目標等が設定されています。
 - ・2016年1月までに消費者物価指数(CPI)の上昇率を6%以下におさめる(注:今年1月時点のCPI上昇率(実績)は前年比5.11%)。2016年度(2016年4月~2017年3月)以降は4%を中心に上下2%幅の範囲内におさめる。
 - ・目標を達成できなかった場合、インド準備銀行はインド財務省に報告するとともに速やかに達成するための行動を取らなければならない。

市場の反応と今後の見通し

- ◆ インド株式市場(SENSEX指数)は利下げ発表を受け、一時初めて30,000ポイントの台を突破しました(引け値は前日比下落)。指数が史上最高水準にあることから目先は高値警戒感等から調整する局面も想定されます。しかし、2015年度予算案やインフレ目標導入を受けた先高期待の高まり、更なる追加利下げ観測等を背景に、再び上昇基調に戻るものと判断しています。
- ◆ 金利(10年国債金利)は、今年1月末にかけての急低下の反動から変動が激しくなる局面も想定されます。しかし、インフレ抑制を受けて早晚落ち着きを取り戻し、相対的に低位で安定した金利水準に戻るものと考えています。
- ◆ 為替(インドルピー)は対米ドルでは金利差縮小観測等から売られやすくなるものの、金融政策の方向性が同じ円に対してはほぼ横ばい圏で推移するものと予想しています。

【図表1】インド株式とインド10年国債金利の推移



【図表2】インドルピー(対米ドル・対円)の推移

